

## JAバンク鳥取における地域密着型金融の取組状況(平成30年度)

JAバンク鳥取（鳥取県下3JAと鳥取県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、平成28～30年度JAバンク鳥取中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

平成30年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

### 1 農山村等地域の活性化のための融資を始めとする支援

#### (JAバンク鳥取の農業メインバンク機能強化への取組み)

JAバンク鳥取は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

#### (1) 農業融資商品の適切な提供・開発

JAバンク鳥取は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金等、制度資金の取扱いを通じ、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成31年3月末時点のJAバンク鳥取の農業関係資金残高<sup>(注1)</sup>は15,888百万円（うち農業経営向け貸付金7,886百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金残高は774百万円です。

(注1) 農業関係の貸出金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

#### 【営農類型別農業資金残高】（単位：百万円）

営農類型	平成31年3月末現在
農業	7,866
穀作	864
野菜・園芸	1,141
果樹・樹園農業	455
工芸作物	63
養豚・肉牛・酪農	878
養鶏・鶏卵	33
養蚕	4
その他農業	4,424
農業関連団体等	8,021
合計	15,888

(注)

1 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

2 「農業関連団体等」には、JAや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種別別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	平成31年3月末現在
プ ロ パ ー 資 金	13,196
農 業 制 度 資 金	2,691
(農 業 近 代 化 資 金)	(975)
(そ の 他 制 度 資 金)	(1,716)
合 計	15,888

(注)

- 1 プロパー資金とは、JAおよび当会原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
- 2 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAおよび当会が低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。
- 3 その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

受 託 先	平成31年3月末現在
日 本 政 策 金 融 公 庫 資 金	774

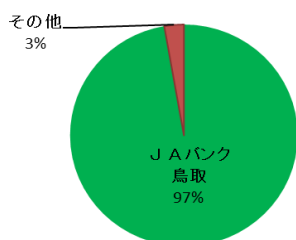
(注)

日本政策金融公庫資金は、農業(旧農林漁業金融公庫)にかかる資金をいいます。

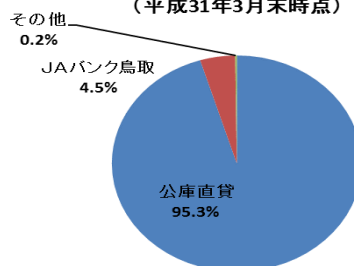
JAバンク鳥取は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金(公庫直貸除く)の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【鳥取県の農業近代化資金および公庫農業資金の取扱シェア】

農業近代化資金取扱いシェア  
(平成31年3月末時点)



公庫農業資金取扱いシェア  
(平成31年3月末時点)



(2) 農業関連資金への利子助成および利子補給

JAバンクアグリ・エコサポート基金および農林中央金庫と連携し、厳しい経営環境に直面する多様な農業の担い手に対し、借入負担の軽減を図ることにより、農業経営の安定化・効率化を支援することを目的として、JA農機ハウスローン、スーパーS資金等の農業関連の融資に対して利子助成および利子補給を行っています。平成30年度は県内で5件の利子助成を行い、利子補給については767件の助成を行いました。

※JAバンクアグリ・エコサポート基金は、JAバンクの社会貢献活動の一環として、農業振興や環境保全に貢献する事業を展開するために、農林中央金庫の基金拠出によって平成19年10月に設立されました。

### (3) 農業近代化資金への保証料助成

J Aバンク鳥取では、農林中央金庫と連携し、J Aから農業近代化資金の融資を受ける農業者が負担する保証料について、負担の軽減策を図ることで、その経営をバックアップし農業所得向上に向けた支援を行うため、保証料助成を行っています。平成30年度は5,853,269円(内、本会負担分2,926,637円)の助成を行いました。

### (4) 担い手のニーズに応えるための取組み

J Aバンク鳥取では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っております。

J Aでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、平成30年度末時点で県内に47名配置しています。

J A系統独自の農業融資資格制度「J Aバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は平成30年度末時点で県内に51名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

本会では、農業者の方に対し「農業メインバンク」としてより専門的・高度な農業金融サービスを提供するために、J Aと一体となった農業融資対応ならびにJ Aの取組み等のサポートを行う農業金融センターを設置(平成22年4月)し、これらの機能の拡充・強化を図っています。

### (5) J A内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJ Aをあげて応えていくため、信用・営農・経済部門合同での定期会議の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上にJ A内事業間連携を強化しています。

### (6) 農業メインバンクCS調査の実施と結果の活用

J Aバンクでは、J Aの農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測(農業メインバンクCS調査)を行っています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。

## 2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

J Aバンク鳥取は、担い手をサポートするため、経営のライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

## (1) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク鳥取では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】 (単位：件、百万円)

資金名	平成 30 年度 実行件数	平成 30 年度 実行金額	平成 30 年 3 月末 残 高
青年等就農資金	39	95	370
就農支援資金	—	—	183
合計	39	95	553

## (2) 農商工連携の推進

J Aバンク鳥取は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と業界の架け橋」として、多様な機能を発揮しています。

平成 30 年度には、シンガポールにて現地の方へ向け梨を P R することで輸出機会の増加による農業所得の増大、外国人観光客誘致による地域活性化を図り、また、広島県で中国地方 5 県の J Aバンクと農林中央金庫主催による商談会を開催しました。

【平成 30 年度商談会等サポート状況】

商談会名	開催日	主催 協賛	来場者
山陰キラキラ CAFE in シンガポール	平成 30 年 7 月 30 日(月)	主催：一般財団法人 山陰インバウンド 機構 協力：本会 他	20 社 (約 30 名) 現地の旅行会社等



商談会名	開催日	主催	参加団体数
J Aバンク・JF マリンバンク 食農マッチングフェア	平成 30 年 11 月 7 日(水)	中国 5 県 J Aバンク 農林中央金庫	106 団体 (出展団体) 213 団体 (来場団体)



### (3) 被災者等への支援

J Aグループ鳥取では、平成 28 年夏季の台風・長雨および 10 月の鳥取県中部地震の被害を受けた農業者に向け、J A鳥取県中央会主導にて果樹等経営安定資金を発動するなど、担い手に対する経営支援に取り組んでいます。

また、本資金はJ Aグループと行政が利子補給を実施することで無利息化を図り、45 件の利子補給を実施することで、農業者等の一層の負担軽減に向け支援しました。

### (4) 経営不振農業者の経営改善支援

J Aバンク鳥取では、負債整理資金の対応にあたり、農業者の経営再建に向けて関係機関と協議を行いながら取り組んでいます。

#### 【平成 30 年度の農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

債務者区分	期中経営改善 支援取組先 A	Aのうち期 中に再生計 画を策定し た先数 a	Aのうち期 末に債務者 区分がラン クアップし た先数 b	Aのうち期 末に債務者 区分が変化 しなかった 先数 c	事業計画 策定率 = a / A	ランクア ップ率 = b / A
正常先①	0	0		0	-	
要注意先	うちその他 要注意先②	3	2	0	66.7%	0.0%
	うち要管理先③	1	0	0	0.0%	0.0%
破綻懸念先④	2	2	0	2	100.0%	0.0%
実質破綻先⑤	0	0	0	0	-	-
破綻先⑥	0	0	0	0	-	-
	小計(②～⑥の計)	6	4	0	66.7%	0.0%
	合計	6	4	0	66.7%	0.0%

注) 期中経営改善支援取組先および債務者区分は平成 31 年 1 月末時点(県内 JA の事業年度末)でのものです。

## 3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供

J Aバンク鳥取では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

### (1) 資本供与の取組み (ファンドの活用)

J Aバンク鳥取では、農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に投資し、その成長を支援しています。

### (2) 6次産業化の支援

J Aバンク鳥取ではJ Aグループと行政機関との連携による 6 次産業化の推進に向けた情報収集および農業者の販路拡大支援により、魅力ある農業・農村の実現を支援しています。

### (3) 負債整理資金による軽減支援

J Aバンク鳥取では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成30年度負債整理資金の貸出実績】 (単位：件、百万円)

資金名	平成30年度 実行件数	平成30年度 実行金額	平成30年3月末 残高
農業負担軽減支援資金	0	0	32
畜産特別支援資金	0	0	68
合計	0	0	100

- ・農業負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。
- ・畜産特別支援資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

### (4) 動産担保融資の活用

J Aバンクでは、農畜産物や事業用車両、各種在庫など様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っています。

## 4 農山村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山村等地域育成への貢献

J Aバンク鳥取では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

### (1) J Aバンク食農教育応援事業の展開

J Aバンク鳥取は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、J Aバンク食農教育応援事業を展開し、農業にかかる教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、J Aバンクを通じて、県下の全ての小学校を対象に5,905冊配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下J Aでは、下表のような食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【J Aバンク食農教育応援事業による活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J A鳥取いなば	子ども農業教室	小学生を対象とした農業体験学習を開催（田植え、野菜の苗植え・収穫、牛の餌やり等）。
J A鳥取中央	あぐりキッズスクール	未来の日本を創る心豊かな子ども達に農業の大切さや食の安全・安心を伝えるため、各関係機関と連携を図り、農業体験学習の場作りに取り組む。
J A鳥取西部	こどもアグリスクール「みんなで農業にトライ」	管内の小学生・親子による農業体験学習を開催（田植え、梨・さつまいもの収穫、クッキング地体験等）

県下3JA (JA鳥取県 中央会主催)	JA子どもフェ スタ	県下の小・中学生を対象とした「わかば」作文・ 図画コンクールの表彰式、食農教育（「わかば」 作文・図画コンクール入賞者、家族等を対象に 208人が参加）。
---------------------------	---------------	--

以上